

「NPO 法人習志野ベイサイドスポーツクラブ」(千葉県習志野市)

講師 NPO 法人習志野ベイサイドスポーツクラブ理事 **小澤 淳 さん**

日時 平成 29 年 6 月 10 日(土) 16 時～18 時

場所 睦沢ふれあいスポーツクラブ 事務所（カフェスペース）

—☆—

【小澤】総合型地域スポーツクラブが千あれば、千通りの運営の仕方・考え方があります。習志野ベイサイドスポーツクラブ(以下、NBS)は、指定管理を受けておらず、会費だけで運営しているクラブです。

事務局員は 3 名いますが、誰にでも「こんにちは」と笑顔で挨拶、一声かけることができる人。1 名は設立時から 15 年携わっている人で、約 500 名いるほとんどの会員の顔と名前を覚えています。ちょっと相談できる、そんな雰囲気です。



Q. 住民や会員は、NBS を、どのような存在と認識しているのでしょうか？（クラブに何を求めていると思いますか）

NBS は「自分が好きなスポーツをできるところ」でしょう。クラブ員は、友達ができたらなおよい、と思ってクラブライフを送っています。総合型地域スポーツクラブは、「どうにでも変身できる」位の柔軟な考え方で、いろいろなことに対処していった方がいいです。規約等でがちがちに固めず、いくらかでも姿を変えていく柔軟性が大事です。

Q. 「総合型地域スポーツクラブ」として、どのような活動をしていますか。

少子化で小学校や幼稚園の空き教室がでているので、そこで、祖父母世代の健康体操を子供達がいる時間に行います。高齢者は子供達がいるだけで元気になるのです。地域の祭りでも、NBS のブースを出し旗も沢山たてます。子供達に様々な景品をあげるのでも喜ばれています。

地域に認められるスポーツクラブは、「地域のために何かをしよう」という考え方があること。そのためには人的余裕が必要です。スポーツでは、地域の人がやりたいと思う種目をよく考えて選定して実施します。

Q. 学校との関係は、どうなっていますか。

以前、小中学校に、ハードルや備品を保管するプレハブ倉庫の設置をお願いしたことがあります。NBS の備品に、転ばないように練習ができるハードルが 5 台あります。普通のハードルはひっかか

ると転ぶので子供達は嫌がり、ハードルも上手くなりません。市の陸上大会があるので、学校に「いつ使ってもいいから」と転ばないハードルを貸し出しました。そうしたら、子供達は徐々に普通のハードルも飛べるようになり、大会で優勝しました。

クラブから硬式テニスの古くなったボールを学校に寄付し、学校では、床が傷つかないようにする椅子カバーに使っています。クラブでは処分に困らず、学校では助かるので、一石二鳥です。

このように、学校とクラブの関係は、「お互いに得していきましょうね」というものです。

Q. 長く継続しているとマンネリ化や参加者の減少があるかもしれませんが、その場合、どのような対策をたっていますか。

マンネリ化を防ぐために、3カ月に1回位、丸印をつけるだけ・無記名（種目名のみ）の簡単なアンケート調査を実施して、今の活動の不満、楽しい点、改善点などを出してもらっています。提出は任意で、回収はふらりと事務所にきて出してもらえばOK。

アンケートの中で不満が出てくれば、該当する指導者と種目責任者に話をして、一緒に解決策を考えます。総合型クラブの指導は、「参加の皆さんが望む」指導をすることです。継続していくには「いろいろな選択肢があることを見せる」「向上心を満たす」ことが大事です。

Q. イベントへの参加者の集め方や新しい会員をどのように増やしていきたいと思いますか。

地域の祭りの会場でブースを出しています。そこで軽スポーツ体験でPRしたり、クラブのチラシを配ったりしています。小学生でできる硬式テニスは、ニーズはありますが周辺で行っていないので、離れた地域からもNBSに沢山来てくれます。

年に一度開催のNBSスポーツまつりでは、各競技で1つブースを出してくれとクラブ員にお願いします。子供達は喜んで手伝いに来るので親もついてきます。親同士の関わりを作ることで徐々に垣根がなくなり、親達は一層NBSに積極的に参加してくれるようになり、また友達が増えていきます。こうして、いろいろな人とつながるのが、クラブだと思います。健康や競技力はプロに任せて、「スポーツを通じて地域の人と知り合しましょう」、これが総合型クラブの目的です。（抜粋まとめ）

